

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

長生村まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

千葉県長生郡長生村

3 地域再生計画の区域

千葉県長生郡長生村の全域

4 地域再生計画の目標

東京通勤圏として人口の流入・増加の続いていた本村においても、2010 年の 14,752 人をピークとして国全体と同様減少に転じており、住民基本台帳によると 2020 年には 14,035 人となっている。「長生村人口ビジョン（2020）」によると 2060 年には 6,049 人と、現在に比して 6 割近く減少すると推計されている。年齢 3 区分別人口割合をみると、年少人口（0～14 歳）と生産年齢人口（15～64 歳）は、総人口と同様に、1995 年以降減少傾向にある一方、老年人口（65 歳以上）については、1980 年以降増加傾向にあり、2020 年において、年少人口 9.5%、生産年齢人口 56.1%、老年人口 34.4%となっている。将来的にも、年少人口及び生産年齢人口は減少し、高齢化も深刻化する見込みであり、2060 年には老年人口が 50%弱と、2 人に 1 人は高齢者と推計されている。

自然動態について、近年は常に死亡数が出生数を上回っており、2020 年は 143 人の自然減となっている。なお、本村の合計特殊出生率は、令和元(2019)年で 0.97 と国（1.36）や千葉県（1.28）の水準を大きく下回っている。過去の推移をみても、国より千葉県のほうが、千葉県より本村のほうが、低い水準となっており、少子化が深刻な状態にある。

社会動態について、転出入数は 500 人前後で推移しており、転入数が転出数を上回る年の方が多いものの、2020 年は 107 人の社会減となっている。

人口の急速な減少と高齢化の進展は、地域住民の生活力を著しく低下させる要

困となる。郊外型の商業施設の立地が進み、車が生活に必須となる中、高齢により車を手放し、人口減少が進み、足となる家族や友人も少なく、どこへ行くにも不便で生活が成り立たないという将来が予測される。また、村内全域に広がる農業振興地域は、景観の形成と豊かな自然の恵みをもたらすものである一方、隣近所が遠くなり、住民の共助には障害となる側面をもっている。こうした予測に対して、取り組むべき今後のまちづくりの中心となる場所として、本村中央部に位置する JR 八積駅がある。しかしながら、駅は本村の玄関口であり交通結節点であるが、駅利用者数はピーク時の 879 人／日（2008）から 757 人／日（2017）へ減少の一途をたどっている状況にある。

人口減少・少子高齢化が進展する中では、高齢者も子育て世代も共に生活のしやすい環境を整えることで人口減少を抑制するとともに、より訪れる魅力のあるまちづくりを進めることで交流人口の増加を図り、地域産業の活性化による雇用の創出を求めるという「まち・ひと・しごと」の好循環を図ることが求められる。そのために前述の課題を解決し、将来にわたって持続可能な村の実現のため、第 2 期長生村総合戦略（2020）において設定した基本目標を、本計画においても基本目標として掲げ、各プロジェクトを進めるものである。

基本目標Ⅰ 働く：雇用

基本目標Ⅱ 人々が集う：コミュニティ

基本目標Ⅲ 結婚・出産・子育て

基本目標Ⅳ 住む魅力のあるまちづくり

【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2025年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	村内事業所従業者数	4,351人	4,600人	基本目標Ⅰ
イ	人口の社会増減数（転入－転出）	-107人	+30人	基本目標Ⅱ
ウ	合計特殊出生率	0.97	1.38	基本目標Ⅲ

エ	「これからも長生村に住み 続けたい」と思う人の割合	79.7%	90.0%	基本目標Ⅳ

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 及び 5-3 のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

長生村まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 働く、雇用をつくる事業

イ 人々が集う、コミュニティ事業

ウ 結婚、出産、子育て事業

エ 住む魅力のあるまちづくり事業

② 事業の内容

ア 働く、雇用をつくる事業

住民が働きながら幸せに暮らせるよう、既存の企業支援策の展開や女性の働く場所の確保など、それぞれの主体の“働きたい”という希望をかなえるため、それらの需要にあった雇用の確保に向け、地域経済の活性化を図り、雇用の場や新しい働き方の受け皿となる環境をつくる。

【具体的なプロジェクト】

・長生の良さを創る農業振興プロジェクト

・働きたいという要望に応える商工業支援プロジェクト 等

イ 人々が集う、コミュニティ事業

人々が本村を選び、人々が集い、コミュニティをつくって安心して長く住み続けられるように、地域のつながりの強化を図るとともに、原風景の残るメリットを活かし、本村の魅力を内外に向けて発信することで、

住み心地の良いまちづくりを目指す。また、情報発信により若者転出者のU I J ターンや戸建を購入するファミリー層の転入促進など、新たな定住促進を図る。

【具体的なプロジェクト】

- ・長生定住促進プロジェクト
- ・縁を活かしたU I J ターン促進プロジェクト 等

ウ 結婚、出産、子育て事業

これからを担う若い人々が安心して結婚・出産・子育てに取り組めるよう、出会いや婚活を支援するとともに、若い世代のニーズにあわせた効果的な施策を実施する。就業上の課題（ワークライフバランス）の解決や子育てに必要な費用の支援など、子どもが欲しい方が理想どおりに子どもを産み、育てやすい環境を整備する。

【具体的なプロジェクト】

- ・MUR A 婚プロジェクト
- ・長生スタイルの出産、子育てプロジェクト 等

エ 住む魅力のあるまちづくり事業

雇用、定住、結婚・子育てを推進する「まち」の基盤として、住民及びまちの活性化に取り組む。住む魅力のあるまちづくりとして、住民が安心して生き生きと暮らし、村で育った子どもたちが戻ってきたいと思えるまちづくりを進め、住民一人ひとりが元気で笑顔の絶えないまちを目指す。地域資源のシェアリングエコノミーや地方創生及びSDG s に資する取組を両輪で行い、地域活性化を図る。

【具体的なプロジェクト】

- ・長生の魅力を発信する観光振興プロジェクト
- ・八積駅を中心とした持続可能なまちづくりプロジェクト 等

※なお、詳細は第2期長生村総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））

4 の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

1,200,000 千円（2021 年度～2025 年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（P D C Aサイクル）

毎年度9月までに外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後、速やかに長生村公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2026年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2026年3月31日まで